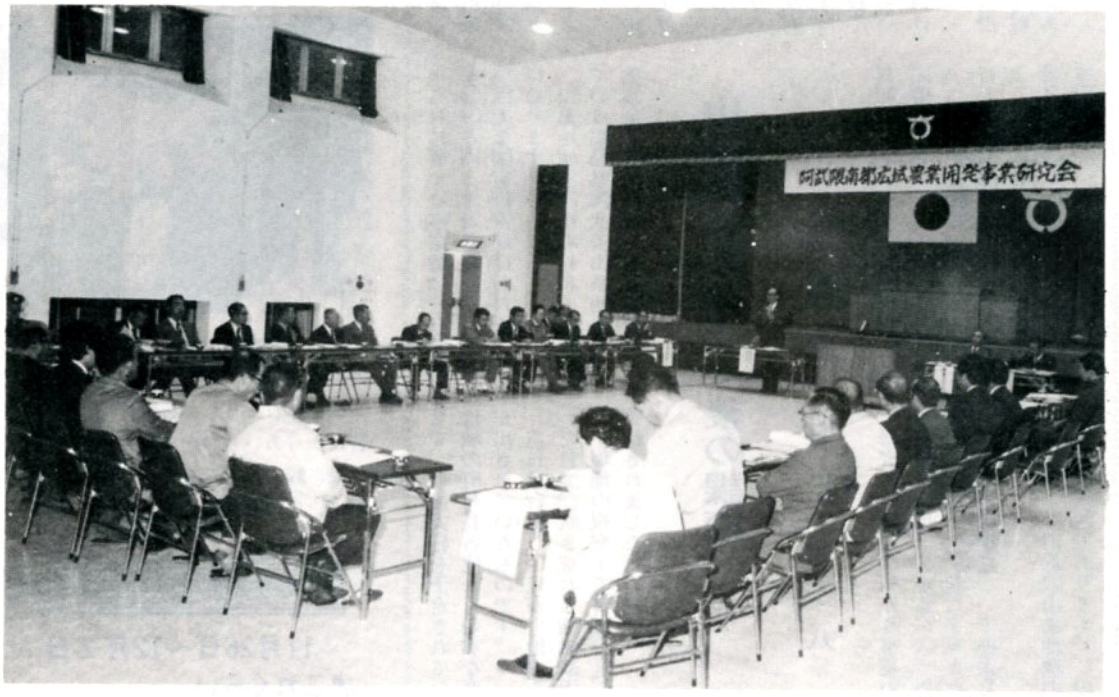
広報
さめがわ

昭和54年
11月号
No. 311
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町佐藤印刷所



阿武隈山系開発事業の成果を現地で検討

阿武隈山系開発の声はわが村より発したものですが、福島県阿武隈山系開発促進協議会が34市町村によって結成されてから15年になりました。

開発計画の中で農用地開発公団が最初に着工した南部区域鮫川村、塙町の事業が今年度で終ります。

この機会に山系内34市町村長と担当課長等の現地研究会が、10月19日山村開発センター集会室で開かれました。

当日は台風20号が本土を縦断した日ですが50余名の関係者が出席して、熱心な研究討議が行われました。終ってバスに分乗した一行は、渡瀬、青生野の開発現場を強風豪雨を冒して視察しました。

- ⦿ 1日～30日　全国青少年健全育成強調月間
- ⦿ 8日　第32回鮫川村畜産共進会
- ⦿ 22日～24日　第32回鮫川村文化祭
- ⦿ 11月26日～12月2日　秋の全国火災予防運動

今月の人口

（11月1日現在）

		前月比
人口	5,746	(＋2)
男	2,865	(　0)
女	2,881	(＋2)
世帯	1,163	(　0)

山系開発事業の今後の課題

村長　石田卯子八

村長のうみ(7)

阿武隈山系南部区域とよばれる鮫川村、塙町地内の農用地開発公団事業は、今年度で一応計画された開発事業を終ることになりました。

八二五ヘクタールの山林原野など未利用低生産の土地を開発して五三一ヘクタールの牧草地をつくり、これに附随する防災施設、庇蔭林、道路、水路、建物を構築するという大事業であります。

長い調査、計画の段階を経て着工になったのが昭和五〇年で、五か年の実施期間を要したわけであります。

この事業は二二団地四三箇所に及び、そのうち一七団地が鮫川村内で五団地が塙町地内であります。

これに要する事業費は三五億一七〇〇万円と予定され、かつてない巨大な国家投資が行われたことになります。

山系地域三四市町村長で組織している福島県阿武隈山系開発促進協議会は、一一月一九日鮫川村山村開発センターで、現地研究会を開催しました。

これは山系開発の第一陣として行われた南部区域の開発が、どのように行われ、どのような形に開発され、これからどのように運営されて行くべきかについての検討会で、今後実施を予定されている地域の町村長各位から切実な要望が出されていたものです。

当日は台風二〇号が当地方を襲った日で、吹き荒れる強風豪雨の中、現地の視察まで計画どおりに強行されました。

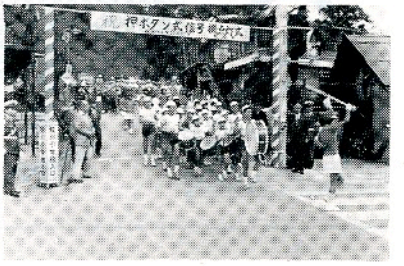
研究会では先づ私から事業の概要経過を説明し、運営に入った事業の実績について報告するとともに、今後の課題について提案しました。

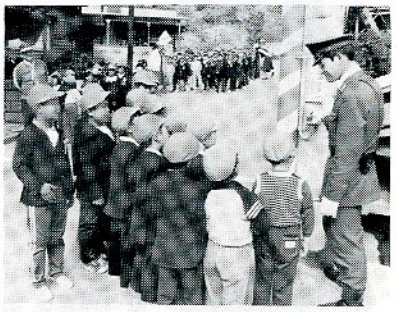
その第一は阿武隈山系地域の草地管理の問題であります。この地域は昔からの馬産地ではあるが、草の栽培管理については科学的な研究も技術も行われていないので、先づ県の段階で基礎的な研究、指導の機関をもつべきであるということであります。

第二は、活用された国有林野の地元取得について、畜産経営の成り立つことを十分考慮した土地の評価方式を採るべきであるということ。

第三は公共牧場の経営主体は、市町村またはその協同体が行政行為として行うことには問題もあり、今後県に畜産公社を設立してこれに当らせるべきであるということであります。

これらの実現については困難も多いことは考えられますが、強力にその推進に努めたいと思います。





鮫川小学校前の県道に押ボタン式の交通信号機が取付けられ、10月13日点灯式が挙行されました。石田村長、棚倉警察署長からあいさつがあり、テープカットの後、鮫小鼓笛隊を先頭に通過訓練を行ない、交通安全の意識を高揚しました。

秋の全国火災予防運動

11月26日～12月2日

！これくらいと思う油断を火が狙う！

火災のシーズンを迎え、村民一人一人が火災予防に努めましょう。

◎石油ストーブやコンロを、コタツに使用しないこと。

◎ストーブの上に、燃えやすい物をつり下げないこと。

◎ストーブに給油するときは、火を消してから給油すること。

◎タバコの投げすてはしないこと。

◎たき火は消防署に届出ること。

◎子供の火あそびには特に注意すること。

火事と救急は
◎地集電話　〇〇一一九番
◎普通電話　一一九番
棚倉消防署鮫川分署



おめでた

九月
新宿　溝井　明美　父溝井昭次
水口　板橋　和子　父板橋　茂

十月
中沢　矢吹　隆司　父矢吹勝美
岫長　北條　裕美子　父北條健治
菅野目　大竹　祥子　父大竹　徹
道少田　菅原　直敏　父菅原敏夫
鍬木田　鈴木　隆　父鈴木　栄
戸草　三瓶　敏和　父三瓶富士夫

おくやみ

十月　年齢　世帯主
塩倉　矢吹好郎1歳　矢吹喜太郎
前沼　青戸彦右エ門77歳　青戸彦磨

固定資産税第4期・国民健康保険税第6期　納期限　11月26日

第32回鮫川村文化祭

11月22日～24日

会場と催し物

◎開発センター
- 22　日　謡と踊りと映画の夕べ
- 23　日　お母さんお嫁さんに感謝する会 青年文化発表会．素人のど自慢大会．青年会模擬店
- 24　日　文化講演会
- 22～24日　村政広報展．老人作品展．一般作品展．さつき盆栽展．色紙展．中井恒峯展．通信館．婦人会バザー

◎村公民館
- 22～24日　農林産物品評会．特産物品評会．生活改善展．農業改良展．商工展

◎鮫小体育館
- 22　日　幼小中学校児童生徒学習発表会

◎東白農商高鮫川分校
- 22　日　東白川農商高等学校鮫川分校創立30周年記念式典
- 23　日　バンド演奏．映画会
- 22～24日　幼小中学校児童生徒作品展．高校生作品展．幼児（保育所・児童館）作品展

◎畜産センター
- 22～24日　農機具展

◎農　協
- 22～24日　交通安全展

◎さめ川食堂
- 23　日　短歌・俳句会

交通事故無料相談

県では、交通安全対策のためにいろいろな施策を講じていますが、不幸にも交通事故にあい、困っている方が非常に多くいます。

これら被害者や加害者のために、県では弁護士の助言を得ながら下記の場所で、交通事故による損害賠償問題などについて無料相談をしていますから、お気軽にご利用ください。

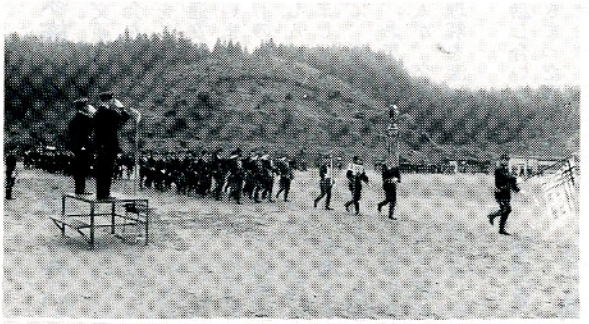
常設相談室

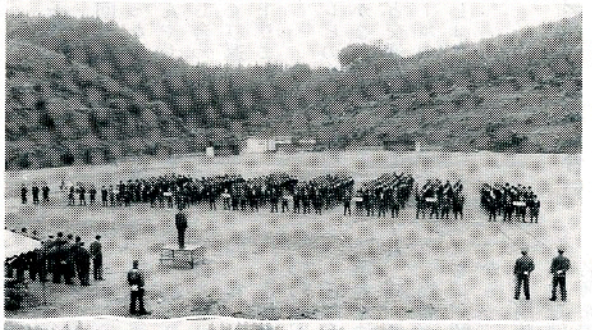
県庁本庁舎（２階）県政相談室
電話　0245210111・内線2291～2293
　　0245210281　直通
（日曜・祭日を除き毎日午前９時から午後４時まで。ただし土曜日は正午まで）

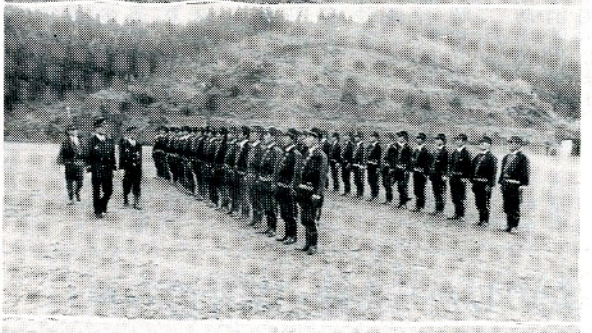
巡回相談日程

相談日	会場
毎月５日	県南行政事務所県政相談コーナー（県白河合同庁舎内）
1,3,5,7,9,11月26日	棚倉町中央公民館

ふりしきる秋雨を冒して 消防団秋季検閲



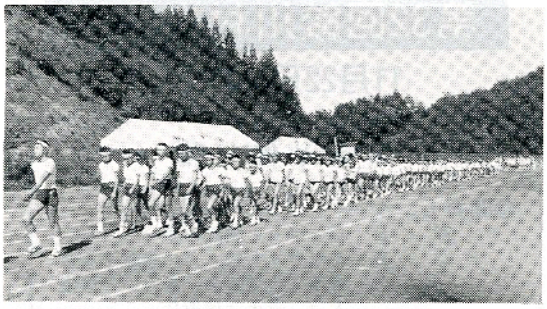






10月３日の消防の日は朝から曇り空。秋季検閲の始まる頃から秋雨が降り出す悪天候になったが、規律厳正志気旺盛を誇る鮫川村消防団は、予定の行事を滞りなく消化しました。

先づラッパ隊を先頭に市内行進から始まり、分列行進、開会式の後通常点検を行ない、規律訓練、閲団と降りしきる雨の中を微動だにせず、正しい姿勢で検閲をうける団員の姿に参観者一同から感嘆の声が起りました。





雨のため延びていた村内小学校の連合運動会は10月8日の快晴に恵まれ、村民運動場で日頃の訓練と体力を十分に発揮して見事な競技を披露しました。

交通安全は家庭から

家族みんなで話し合いましょう

「交通事故のない明るい社会をつくろう」この願いをこめて多くの人々が交通安全のために努力していますが、毎年六〇万人もの人々が交通事故で苦しんでいます。

痛ましい事故をなくすために、運転者をはじめ子供、お年寄りなどすべての人が、交通安全について理解を深め、注意することです。

◎家庭での話し合いの仕方

話し合いはきまった形があるわけではありません。

月一～二回、たとえば家族がみんなでそろった土曜日の夕食後など、お父さんやお母さんが中心になって、話し合ってはいかがですか。何度もくり返し行うことによって効果が上ります。

◎話題は

新聞やテレビの交通事故のニュース、身近かなところでおこった交通事故など交通事故のおそろしさ、交通ルールの大切についても話し合いましょう。

安全を茶の間でつくる話し合い

クイズ

昭和54年秋の全国火災予防運動の標語を知っていますか

福島県と福島県消防協会が共催で昭和五四年秋の全国火災予防運動の統一標語を広く県民の皆様に知っていただくために、懸賞を行います。

応募要領は次のとおりです。

（応募要領）

一、応募の方法

官製ハガキに、昭和五四年秋の全国火災予防運動統一標語と郵便番号住所、氏名、年齢、職業を書いてお送りください。

二、あて先

〒九六〇　福島市中町五の二一　福島県消防協会火災予防懸賞係

三、締切り　昭和五四年一二月五日（当日消印有効）

四、賞品

正解者一一〇名に消火器（六〇〇〇円相当）

正解者多数の場合は抽選で当選者を決定

五、発表

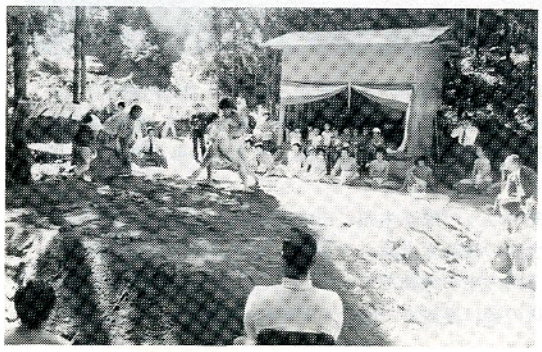
福島消防新聞に発表するとともに、昭和五四年一二月一五日から一二月三一日までの間、県内各消防本部、消防署、消防分署及び消防出張所等に、当選者名簿を掲示します。

たのしかった統一祭礼の一日

10月1日の統一村祭りもすっかり地域の生活に定着し、晴れ上った秋空のもと、商工会青年部の威勢のよいみこしと子供のみこしが村の中心街をねりあるき、西野青年会が復活した農村相撲も盛大に熊野神社境内で行われ、祭り気分を盛り上げました。







秋の全国火災予防運動　11月26日～12月2日

全国青少年健全育成強調月間
11月1日～30日

明日を築く青少年に 温かい思いやりを

次代を担う青少年を健全に育てることは、社会の一員であるわたしたち一人一人の大きな課題です。

しかし、現実には少年の非行や自殺問題、社会に無関心な青年層の増大などさまざまな青少年問題が起きています。

このような青少年問題を解決し健全な成長を図る上で大切なことは、まず、青少年自身が自らの使命と役割を自覚し、自己研さんを怠ることなく積極的に社会の創造に参加することです。

同時にわたしたちは、家庭をはじめとして、学校、職場、地域社会など青少年を育成するあらゆる生活の場で、青少年が向上発展への意欲を高めることができるように温かく見守りながら、彼らに接することが大切です。

一一月は全国青少年健全育成強調月間で、今年の重点目標は次のとおりです。

一、青少年の社会参加活動の促進
二、地域における青少年育成活動の促進
三、健全な家庭生活の普及促進

わたしたちの青少年を見守る温かい目が、明日の社会を築く〝原動力〟を育てていくのです。

読者の声

広報「さめがわ」有難う

坂本六良さん

私のところには、毎日購読以外の新聞、雑誌、パンフ、リーフレットの類がどこからともなくやってくる。関心、興味のあるものは早速に精読するのだが、中には一見しただけでそのまま家人に渡してしまうものもある。

こういう中にまじって広報「さめがわ」が送られてくると、私は何よりも先に封を切って読む。心待ちに待っているわけだ。

私は、故郷を離れて間もなく五十年、この大部分は福島市だが、いまなお鮫川村民のつもりでいる。村長は石田さん、助役は恵司君（いやこれは失礼）、よその村長、助役ではない。

広報「さめがわ」は、こういう私に毎月村の大勢を教えてくれる。

彼の息子が今度の村会議長か、あいつも四人の孫持ちか、と広報をみては喜ぶ。

人事の記事には格別にも関心が深いのだ。鮫川村の現在がどういうところにあり、これが将来どこを目指して進んでいるのか、広報「さめがわ」をみればよくわかる。それにはこの広報まことによく出来ている。

もうだいぶまえだが、私は広報づくりの先生をした。県庁にたのまれて方々まわったこともある。この先生がみて、鮫川村の広報は先づ甲の上なによりも読みやすい。

郷里を離れた人間というものは、離れたことのない人の想像以上にも、郷里の無事を祈るものである。

東白川郡に交通事故・・・とのテレビをみれば、村の人でなかったのに安心するといったもの。

村を離れている人がどのくらいいるのか私にはわからないが、そのどの人も広報「さめがわ」を待っていることだろう。そして安心し、喜んでいることだろう。

（富田区出身・元福島民友新聞編集局長。福島市在住）

お知らせ

ゴミ収集日

一二月のゴミ収集日は次のとおりです。各家庭のゴミは袋等に入れ、散乱しないよう収集日の朝持ち出しましょう。

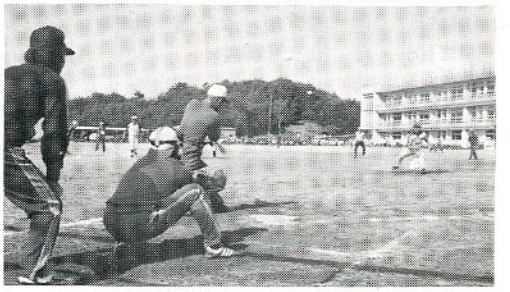
なお、燃えないゴミは一週間おきと毎月一回の収集コースがありますので、間違いのないようご利用下さい。



収集コース	種別	11月	12月
江竜田～中野町～彦次郎～広畑～新宿（新宿橋まで）	可燃物	毎週月・木曜日	毎週月・木曜日 31日を除く
	不燃物	（隔週月曜日） 5日・19日	（隔週月曜日） 3日・17日
新宿（新宿橋から）～道少田～大塩コース	可燃物	毎週火・木曜日	毎週火・木曜日 31日を除く
	不燃物	（隔週月曜日） 5日・19日	（隔週月曜日） 3日・17日
真坂～芋～酒垂～宝木～水口～宮沢コース	不燃物	（隔週水曜日） 14日・28日	（隔週水曜日） 12日・26日
越虫～青生野～戸草～歳ノ草～宮代～遠ケ竜コース	不燃物	（隔週火曜日） 13日・27日	（隔週火曜日） 11日・25日
石井草～前田～鬼越～戸倉～菅田～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	不燃物	毎月第1金曜日	毎月第1金曜日 7日

※収集日が休日の場合は、ゴミ収集は行われませんので、次回の収集日に出して下さい。





鮫川中学校のＰＴＡは父兄と教師の交流を深め、親善を厚くすることによって、生徒の教育効果を高めようと、親善球技大会を開きましたが、多数の参加があり、たのしく有意義な催しでした。

スポーツの祭典 健康づくり秋季大会



▶入場行進



◀熱戦を展開



▶ソフトボール優勝
東石サンライズチーム



◀バレーボール優勝
渡瀬Bチーム

今年の健康づくり秋季大会は、10月10日の体育の日に主会場村民運動場を中心に盛大に行われました。

各大字に組織された地区体育協会毎に堂々の入場行進を展開。

開会式の後、壮年ソフトボールは村民運動場と鮫中校庭で、家庭バレーボールは鮫小、鮫高、鮫中体育館で熱戦が展開され、ソフトは東石サンライズ。バレーは渡瀬Bチームが優勝の栄冠に輝きました。

駅伝

鮫中5位入賞

県中学校駅伝競走大会

第二二回福島県中学校駅伝競走大会は、去る一〇月二六日郡山市（郡山四中～柳橋折返し、八区間三二キロ）で行われ、東白川郡からは鮫川中学校が出場し、一時間五〇分五四秒のタイムで見事五位に入賞しました。

一区を一七位でスタートしましたが、一四位、七位と徐々に追い上げ、七区では長久保浩寿君が一二分四四秒の区間新記録を達成しました。

鮫川中学校は毎年県大会に出場し、昨年は三位の好成績をあげました。なお優勝は植田中学校でタイムは一時間四八分一〇秒でした。

青年駅伝

戸草分会 2連勝

第二回青年駅伝競争は、一〇月一〇日体育の日、各大字から七チーム（渡瀬は欠場）が参加して行われました。



午前一〇時鮫川高校前をスタートし、一〇区間、二一・六キロ（鮫高前～馬場～戸倉～水口～宝木～滑石～酒垂～猿子～寅卯平～彦次郎～広畑～新宿～宿ノ入コース）で昨年に引続き優勝しました。二位が西野分会、三位が西山分会以下、中野、青生野、富田、東石の順でした。

会が一時間二二分三一秒のタイム

休み日の在宅当番医

（11月～12月）

月日(曜)	当番医院 棚倉町	塙町	矢祭町
11月3日(祝)	菅	石川	——
4日(日)	棚倉町診療所	厚生病院	慈泉堂
11日(日)	和田	中島	——
18日(日)	阿部	根本	菊池
23日(祝)	藤田	厚生病院	——
25日(日)	勝田	——	慈泉堂
12月2日(日)	菅原	石川	慈泉堂
9日(日)	薄葉	厚生病院	——
16日(日)	大木	中島	菊池
23日(日)	菅	根本	慈泉堂
29日(土)	——	厚生病院	——
30日(日)	棚倉町診療所	——	慈泉堂
31日(月)	——	石川	——